

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会 (2021.8-2023.7)

2021 年度第 2 回理事会 議事録



## 1. 日時

2021 年 10 月 17 日(日) 15:00~18:05

## 2. 場所

国際文献社会議室および web 会議 (zoom 使用)

## 3. 出席者

理事総数:20 名、出席理事:20 名、欠席理事:0 名

理事長:山岸敬幸

副理事長:坂本喜三郎

出席理事:鮎沢衛、赤木禎治、岩本眞理、大内秀雄、小野博、笠原真悟、城戸佐知子、鈴木孝明、  
須田憲治、土井庄三郎、豊野学朋、中野俊秀、檜垣高史、三浦大、三谷義英、山岸正明、  
瀧間浄宏、深澤隆治(途中退席)、

監事:河田政明、富田英、市田路子

幹事:落合由恵、早瀬康信、水野芳子、武田充人(欠席)

## 4. 議長

理事長 山岸敬幸

## 5. 議事の経過の要領及びその結果

定刻となり定款第 26 条 3 項により山岸敬幸理事長が議長となり、開会を宣言した。議長より本理事会は定款第 27 条 2 項の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨の報告があった。議長より、本理事会の議事録署名人として岩本眞理理事、大内秀雄理事が選任された。また、本理事会は web 会議を併用するため、議長が、出席者の発言が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等に適時適格な意見表明が互いに行えることを確認し、議事に入った。

## 6. 前回の議事録の確認

2021 年度第 1 回理事会議事録の確認が行われた。

## 7. 報告事項:

・理事長報告(山岸敬幸理事長)

### 1) 持ち回り理事会報告

・心房中隔欠損閉鎖栓の適応追加に係る要望書(9月・厚労省とPMDA・日循他と合同)提出について承認された。

### 2) 要望書等提出状況

・「ロクロニウム臭化物」の記載内容再検討の要望書(日本新生児成育医学会他と合同)  
・アセトアミノフェン静注製剤過量投与についての注意喚起(日本小児外科学会より)

### 3) その他

・理事・監事挨拶:次号ニュースレターに掲載予定

・第3回 COVID-19 現状調査アンケート 予定

## 8. 学術集会会長報告

1. 第56回学術集会アンケート結果(山岸正明会長)
2. 第58回学術集会準備状況報告(土井庄三郎会長)

学術集会 HP を学会 HP にアップ、ポスター配送、企業説明会済み

学会企画 19 セッションは最終調整段階、会長企画セッションは 8 セッションほど準備中  
海外・国内招請者も話を進めている。

学術集会支援委員会委員長(早瀬幹事)から支援委員会に関する報告

## 9. 各エリアの事業内容・計画

学術エリア・渉外エリア・次世代エリア・専門医制度エリア・学会誌エリア・社会制度エリア・  
保険診療/臨床試験エリア・医療安全/倫理エリア における事業内容・計画の確認

## 10. 審議事項:

### 第1号議案:委員会体制(名簿)最終案について(山岸理事長)

**提案内容**:委員会体制(最終版)について承認を得たい。

**議決結果**:全員一致で承認された。

### 第2号議案:第61回学術集会会長の選出スケジュールについて(山岸理事長)

**提案内容**:第61回学術集会会長の選出スケジュールについて承認を得たい。

定款施行細則第8条7の「各年度(4年前の総会後の)第2回理事会にて、推薦者を決定する。」という条文から逸脱するが、今年は理事会再編の年で、第1回理事会を8月、第2回理事会を10月に実施したので、例年の第2回理事会の時期に一致する第3回理事会で決定するスケジュールを承認頂きたい。現在会長に立候補している方は3名で、まず理事長、副理事長と候補者で話し合う。第3回理事会で審議、必要なら選挙で理事会推薦者を決定する。

**議決結果**:全員一致で承認された。

### 第3号議案:AHA、AEPCとの短期交換留学について(山岸理事長・三谷理事)

**提案内容**:AHA、AEPCとの短期交換留学の現状と今後の方針について承認を得たい。

以前の審議で選出されたAHA、AEPCとの短期交換留学の権利を持つ人が、COVID-19の影響で保留になっている。保留の方は、そのまま優先権を持つものとする。すでに辞退者がいるが、現時点では追加公募を行わず、保留の方の一人でも実施できるようになった時点で、事業を再開する。年度内の人数を追加で増やすことはしない(そのための予算も取らない)。

**議決結果**:全員一致で承認された。

### 第4号議案:第12期専門医試験実施方法について(鮎沢理事)

**提案内容**:前回に続き、筆記試験を全国4会場で、面接をzoomによるweb面接で実施したい。

**議決結果**:全員一致で承認された。

### 第5号議案:英文誌発展(PubMed、IF)のための追加予算申請について(大内理事)

**提案内容**:海外著名人・学術集会招請者に英文誌への投稿を依頼するための費用(謝金)を予算化したい。

**議決結果**: 全員一致で承認された。

## 第 6 号議案: Editorial board の増員について(大内理事)

**提案内容**: 和文誌/英文誌でそれぞれ 25 名前後 Editorial board を選出したい。

**議決結果**: 全員一致で承認された。

### 11. 懇談事項

#### 1. 高尾賞の選出方法について

今年は応募者なし。自薦は難しいと思われ、理事会で候補者を選出する、ないし学術エリアの顕彰委員会で候補を上げて理事会で審査するような形式はどうか(山岸理事長)。

小垣顕彰委員長と相談し、学術委員会にも相談の上で第 3 回理事会に提案したい。

高尾賞の規約自体も変更する必要がある。規約改正も含めて、顕彰委員会で検討いただく。

(山岸理事長、土井理事、瀧間理事)

#### 2. 日本循環器学会理事選挙について

日本小児循環器学会として日循理事をどのように送り出すか。日循理事には小児枠、女性枠、外科枠、地域枠がある。日循の理事に立候補するためには代議員(社員)になる必要があるが、代議員(社員)の選出においても地域毎に選挙があり、地域によっても取り決めがある。外科枠(2 枠)については、心臓血管外科学会理事会、胸部外科学会理事会で方針がほぼ決まるので小児の代表が推薦されるのは現状では難しいだろう。女性枠(2 枠)はこれまで小児科からは選出されておらず、立候補となると選挙の準備が必要で当選確率も低い。小児枠(1 枠)には日本小児循環器学会の理事長が入るのがよいと思われる。三谷理事が 3 期に亘り日循理事を務めた。日循は次回以降 3 期定年になるといわれており、後任として山岸理事長を日循理事に推薦したい。小児枠の定数については日循会員率に依存しており、現状の小児科会員の数が倍増しなければ小児枠は増えない。

(山岸理事長、三谷理事、鈴木理事、笠原理事、赤木理事、岩本理事)

「成育基本法」および「循環器病対策基本法」に学会(アカデミア)の果たす役割として、学会の質の維持・向上、質の高い専門医の継続的育成、心臓外科医・小児循環器医・小児集中治療医の育成、働き方改革(2024 年問題)も見据えた施設の適正化は、特に重点事業であり、理事会では複数のエリアにまたがるが、有機的に連携して議論していきたい。以下、3、4、5 については、まとめて討議していただきたい。(山岸理事長)

#### 3. 分科会・地方会に対するアンケート案について

新型コロナ下での分科会、地方会のあり方についてアンケート案を小野理事が作成した。専門医制度・認定委員会でも調査を予定しているが、小野理事作成のアンケート案の方が得られる情報が多い。結果は専門医制度・認定委員会と共有する。専門医制度・認定委員会では、今期から分科会・地方会参加による専門医研修単位の認定方法に関して、藤原優子委員を長とする WG を設置して検討することとしている。(小野理事、鮎沢理事)

#### 4. 専門医認定機構・小児心臓外科専門医(仮)について

コロナ下での日本小児循環器学会地方会の実情について現在アンケート調査中である。単位認定はコロナの状況を踏まえて暫定的に扱っている。

「小児科サブスペシャリティ領域の専門医制度のこれから」(金原出版「小児科」出版予定)について鮎沢理事より紹介。

専門医機構に準拠するために日本小児循環器学会専門医制度において今後必要な事項は以下の3点:

1. 研修手帳、研修手帳の項目評価
2. e-learning 双方向教育システムの準備
3. 指導医制度の発足

特に、2, 3 については予算も関係するため事前準備が必要である。当学会の専門医制度が専門医機構に準拠する必要があるかどうかについては、あらためて議論が必要である。(鮎沢理事)

外科系の専門医制度について

専門医認定機構に準拠する形で小児心臓外科の専門医制度を立ち上げる場合、

日本心臓血管外科学会専門医機構の中に小児心臓外科専門医を作ることになるが、現在の二階建て構造の上に三階建てとして作ることが必要となり、現在小児心臓外科専門医数では少なすぎて困難である。一方で、小児心臓外科の専門医(または認定医)、修練施設を標榜していく背景は十分にある。たとえば小児心臓移植施設については心臓血管外科専門医+日本小児循環器学会の評議員といった既存の組み合わせで実施している。また、次世代育成エリアで策定された『提言』が基本となるが、若い小児心臓外科医の時間軸を含む育成とクオリティコントロールを担保するために学会主導の認定システムがあったほうがわかりやすい。現実的には、専門医機構の準拠を目指すより日本小児循環器学会の専門医制度とタイアップしながら小児心臓外科専門医(認定医)制度を作っていく・おいた方が現実的で将来的にも良いのではないか。この目的と方法が明確に示されたので、今後『提言』をさらに学会・社会に発信した後に、その実行策として制度構築を進める。(中野理事、鈴木理事、坂本副理事長、山岸正明理事)

現在日本小児循環器学会の専門医制度・認定委員会の中に次世代育成エリアとタイアップしながら外科系の認定資格制度を作るWGがあり、中野理事を中心として今後2年を目標に取り組んでいる。(鮎沢理事)

小児心臓外科専門医制度に付随することとして、労基法に基づく医師の働き方改革(2024年問題)において各施設がC2水準(集中的技能向上水準)の認定を受けるよう、学会から発信していく必要もある。(岩本理事)

## 5. 英文誌の充実—投稿数を増やすための方策について

学会としては英文誌でIF取得を目指すことを考えていくことが理事会で決定している。

しかし、現状の英文投稿はcase reportにとどまっているのが現状であり、IFの取得は難しい。

IF取得を目指すためにどのように総説や原著論文の掲載を増やしていくかが課題である(大内理事)。

この件に関し、各理事より下記ご意見をいただいた。

### 1) 英文雑誌のOpen化に関して

Editorial Boardに海外から参加していただくことなどもOpen化していくことの一貫として受け止めている。一方で投稿者の対象とその投稿料をどのように考えているか。Secondary publicationも受け入れていくということだが、無料または廉価でOpen化していくと、ものすごい数の投稿が会員以外からもくる。IFを目的とすることも含めて、アジアの心臓外科学会雑誌の場合、Case reportの採択は1-2割程度に抑える運用をしている。(坂本理事)。

まずは投稿数を増やすことが最も大事である。初回は投稿料を免除してでも投稿を促していき、軌道に乗れば投稿料を設定していくことも考えている(大内理事、山岸理事長)。

## 2) IF 取得に関して

IF 取得は基本的に 1.0 が目標である。胸部外科学会も IF 維持にむけて Case report を多く取り入れることは困難であり、サブジャーナルとして別予算を組むことを考えている。一方、World society journal は CHD 論文において Case report も重要であるとし、IF を狙わないで Case report を受け入れる方針としている。IF を目指すなら Case report は制限する必要が生じる可能性は高いので、本雑誌がどのような英文誌を目指すのかを考えていく必要がある(坂本副理事長)。

## 3) 論文投稿促進への対策

専門医取得や更新に際して、英語論文を義務化することについては専門医制度・認定委員会で取り上げてきている。

これに対する意見としては、本来の修練施設の目的と異なるのではということ、専門医制度を論文義務化という形で利用する件については理事会の承認が必要であるのではないかと、Secondary publication を増やすのが良い、という意見が出ている。2年で原著論文を掲載まで義務化するにはやや拙速感があるが、目標としていくことでよいのではないかと。(鮎沢理事)。

心臓血管外科系の専門医制度では論文の要求度を上げてきている。専門医取得の際に筆頭論文で3編程度、更新の際も論文が3編(共著可)必要である。日本小児循環器学会専門医更新の際にも論文の義務化を視野に入れて検討すべきであり、当英文誌に掲載されれば2編分にカウントするなどのアドバンテージをつけるなども工夫のひとつとして考慮してもよいのではないかと(坂本副理事長、中野理事)。

## 4) Transfer の案について

Circulation Journal, Circulation Reports に掲載されなかった論文を小児循環器学会英文誌に transfer を促すことも今後は必要ではないかと。最近では Circulation Journal が行っていたような Auto citation は難しいが、雑誌間の相互の citation であればよい。(三谷理事)

Secondary publication に関しては、今後英文、邦文で編集局を変えるようにしている。

## 5) ガイドラインの掲載について

循環器連合の中で GL の掲載についての著作権についてはどのようにお考えか(坂本理事)。

GL 作成の段階から学会の代表が入って経費も負担していることが条件である。GL は引用されやすいので積極的に学会として関わっていくべきである。(須田理事)

最後に山岸理事長から下記について検討することが提案された。

- ・理事ないし理事施設から2年間に最低1-2回投稿する(まず理事会が動く！)
- ・研究委員会(課題 A/B)の論文 投稿依頼
- ・AWARD の論文 投稿を要件に加える

- ・評議員更新要件に、英文誌への投稿を加える
- ・分科会(会長・理事長)に依頼する:ACHD、JCIC、胎児心臓病、小児心筋疾患、肺循環、小児心電など、皆で協力して作成する英文誌として、第1投稿先でなくても、第2、第3投稿先でも良いので検討を
- ・Transfer 依頼 循環器連合を通じて Circulation Journal、Circulation Reports などからの transfer

以上を学会誌エリアで協議し、理事会で審議するか実行に移す。

## 6. 社会貢献啓発委員会の新設について

社会制度エリアに医療と教育の連携、循環器疾患の切れ目のない医療、予防を目指した啓発、遠隔医療など成育基本法や循環器病対策基本法の基本方針を見据えて患者家族会などと連携して啓発事業や情報発信を行う委員会として社会貢献啓発委員会(仮)を設置し、社会制度エリアの各委員会と連携して行う。PHJapan の実績を引き継いでいくことが必要と考えており、その中でメンバー構成を考えていきたい(檜垣理事、土井理事)。委員については持ち回り委員会で承認する。

社会啓発活動において患者家族会からの意見や評価は重要である。今後この委員会が患者家族会との窓口的な機能をもつことが期待される(笠原理事、山岸理事長)。

## 7. 学会資料の整理および引き継ぎ:クラウド、HPの活用について

学会資料の引き継ぎのあり方について、前理事会でクラウドを立ち上げるまでに至らなかった点について、お詫びする。(山岸理事長)

今期理事会から改めて、未来予想図委員会の総務および広報委員会を中心に、まずHPの活用を考える。本来HP上に学会・委員会資料を掲載するスペースが作成されているにもかかわらず、現在、活用されていないスペースも多い。今後、10年持続できる委員会体制維持のためには、各委員長が委員会議事録や重要な資料について、書類名、フォルダ名を統一して整理し、HPやクラウドに保存することができるようなシステムの構築が必要と考えられる。未来予想図委員会・総務・広報委員会の業務として、次の引き継ぎまでには必ずシステムを確立する。(山岸理事長・豊野理事)

## 8 閉会

以上をもって本日の議事を終了とし、議長から議事への協力に謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人がこれに押印する。

2021年10月17日

議長 山岸 敬幸

議事録署名人 岩本 眞理

議事録署名人 大内 秀雄

(以下余白)

(以上)